

リニア新幹線の問題点は？

——大義のないリニア計画は中止を！

将来に禍根を残さず

東京五輪や国土強靱(きょうじん)化などにかこつけて自民党内や財界筋から、名古屋・大阪の同時開業や国の財政支援要求などを求める声が出ていることは、異常です。

国土を荒廃させかねず、将来に多大なつけを払わせることになりかねない、リニア計画は中止し、巨大開発事業頼みの政策から脱却することこそが、未来への責任です。



東京・名古屋・大阪だけの旅客輸送に特化 人口減少を加味しない無謀な計画

「中央」の名がついているものの、沿線の都市や中間駅との乗り継ぎなどはおかまいなく、東京・名古屋・大阪間の時間短縮だけを目的とする交通体系です。

東京―名古屋間が数十分短縮することに多額の経費を使うことで、誰にメリットがあるのでしょうか。

そもそも、東京―大阪開業の2045年には、人口が2400万人減少します。

共産党辰巳孝太郎参議院議員の追及に、国土交通省鉄道局長は、

この人口減少を需要予測に加味していないことを明らかにしました(2014年3月13日参院国土交通委員会)。人口減少に配慮のない無責任な計画です。

しかも、JR東海は採算割れしたからといって破産させるわけにいかない公共交通を担う企業です。赤字になれば、国民負担に直結することは避けられません。



エネルギー浪費型システムは 時代遅れ

リニアの走行による消費電力は、現在の新幹線走行時にかかる電力の3・5倍と言われます。それは、全体を通しての平均であり、重量のある車両を磁界で浮かせるまでの区間や、高速の車両を止める際のエネルギーは莫大となるでしょう。

東日本大震災と福島原発事故以

降、省エネルギー・低炭素社会への流れがエネルギー政策の基本となりつつあります。それに逆行するエネルギー浪費型の交通体系を、これから13年先に、あらたに増やすことは、エネルギー政策として誤りであり、国民的合意はありません。国会をはじめ、徹底的な検証が必要です。

JR東海に直談判 ——青木ともこ名古屋市議予定候補など

4月22日のJR東海による大深度地下事業説明会では西区のルートは説明がなかったため、翌日(23日)、名古屋市西区の住民と青木ともこ名古屋市議選予定候補(西区)が、JR東海事務所を訪問して説明を求めました。

(以下、Nは西区住民と青木ともこ予定候補、JはJR東海)

N: 説明会では西区のルートの説明がありませんでした。説明会を開いて事業概要を公開して下さい。

J: 7~8月頃に工事实施計画が作成される。その時に事業説明をする予定。

N: 西区ルートは大深度区域(40m地下走行)からリニア新幹線が上昇を始める区域です。用地買収や立ち退きなど工事の影響も大きいです。なぜ公開し、説明しないのですか?

- J: 西区ルートについてはホームページにある。まだ不明な点もある。
N: 昨日の説明会では質問があって初めて西区ルートに触れられました。訊かれなければ言わないのですか?公開が当然ではありませんか?
J: ネットを見られる方に資料を回覧してほしい。
N: 町内会長さんや住民の方々から「何も知らせがない」「どんな計画か」と不安や疑問も寄せられています。工事説明会より前に、周辺住民にはちゃんと説明して下さい。
J: 説明会は出来ません。騒然となってしまふ。
N: 住民を集め会場を設けます。そこで説明をお願いします。
J: 私の一存では決めかねる。後日、お返事します。

